

銀輪の祭典

準備万端

ツール・ド・のと あす号砲

発着点 内灘で会場設営

大会を前に準備されるのぼり旗

内灘町の県立自転車競技場



第22回「ツール・ド・のと400—能登半島一周サバイバル・サイクル2010」(同実行委、県体協、県自転車競技連盟、北國新聞社主催)は18日から3日間、能登半島を舞台に石川、富山両県で行われる。40都道府県から1412人が出場し、バルセロナ五輪トラックレース代表で競輪の小嶋敏二選手(金沢市在住)もサポート隊のメンバーとして伴走する。16日は、約410キロのコースの発着点となる内灘町の県立自転車競技場でのぼり旗の設置など会場設営が行われた。

大会は、3日間で全行程に挑むチャンピオンコースと一日コースがあり、マナーなども注意するマナーなども注意する役割で、小嶋選手のほか出場選手と一緒に自転車で走り、ペース配分などを調整する。また、各コースともサポート隊員が同行する。

唐見実世子さん(30歳)は、「能登の魅力、発見を」と題した企画で、同競技場で午後1時から午後3時半まで開催される。小嶋選手は、「北國新聞社を訪れ、「少しずつ多くの人に完走出来してもらえるようサポートしたい」と、1994年の第6回大会以来16年ぶりに参加する大会を前に力を込めた。小嶋選手は、同時期に行われる「オールス

クニック開催」で、唐見さんら約30人が務める。唐見さんは、「北國新聞社を訪れ、「少しずつ多くの人に完走出来してもらえるようサポートしたい」と、1994年の第6回大会以来16年ぶりに参加する大会を前に力を込めた。小嶋選手は、同時期に行われる「オールス

クニック開催」で、唐見さんは、「北國新聞社を訪れ、「少しずつ多くの人に完走出来してもらえるようサポートしたい」と、1994年の第6回大会以来16年ぶりに参加する大会を前に力を込めた。小嶋選手は、同時期に行われる「オールス



16年ぶりの大会参加に意気込む小嶋選手
=北國新聞社



唐見実世子さん

には「再発見」しても登のすばらしさを「新らえるよう頑張りたたって、「第22回ツール・ド・のと400サイクルクリニック」が開かれる。小嶋選手や唐見さんら6人が、正しい自転車の乗り方を指導するほか、記念撮影やサインにも応じる。当日参加が可能で、参加費は1人千円。問い合わせはカツリーズサイクル(076(239)4884)まで。

「能登の魅力、発見を」

サポート隊の小嶋選手意欲

小嶋選手は16日、北陸競輪が今年は例年より早く開催されたため、「地元の盛り上げに一役買いたい」とレースの合間に縫つて参

じでも多くの人に完走出来してもらえるようサポートしたい」と、1994年の第6回大会以来16年ぶりに参加する大会を前に力を込めた。小嶋選手は、同時期に行われる「オールス

クニック開催」で、唐見さんは、「北國新聞社を訪れ、「少しずつ多くの人に完走出来してもらえるようサポートしたい」と、1994年の第6回大会以来16年ぶりに参加する大会を前に力を込めた。小嶋選手は、同時期に行われる「オールス